

令和7年度 後期いわき資料常設展

デザイナー

ももよ

鈴木百世

知る人ぞ知るいわき人

## はじめに

鈴木百世氏は、昭和時代初期の平市街に「鈴木図案社」を立ち上げ、商品パッケージのデザインや鳥瞰図（上空から見下ろしたように描かれた図）の制作などに携わっていました。

本展示では、令和5（2023）年度に寄贈していただいた、鈴木氏の作品を中心とした資料を紹介します。

本展示を通し、鈴木氏の作品や、鈴木氏が生きた時代のいわきの様子について知るきっかけとなれば幸いです。

## 鈴木 百世 氏



明治34（1901）年、平町（現 いわき市平）生まれ。

東京府豊島師範学校（現 東京学芸大学）に入学。教職課程の他に「増科」として好きな科目を選ぶことができたため、美術を学んだ。

その後、東京府（現 東京都）で教職に就き、10年間、教鞭をとったが、体調を崩したことにより、昭和10（1935）年に辞職し帰郷。平町に「鈴木図案社」を開き、妻の実家の菓子店「松屋」の商品パッケージを制作した。

昭和12（1937）年、平市市制施行に際して市章のデザインが公募され、これに応募し佳作に選ばれた。このことがきっかけで、鳥瞰図や商店から商品パッケージ等の依頼が増え、多忙となった。

また、郷土の工芸品として、素焼きの人形に着色した「じゃんがら人形」の制作にも力を入れた。昭和15（1940）年、再び教職に就くことになり、高坂小学校で教鞭をとったが、昭和17（1942）年、病気のため死去。享年41歳。

## ■ じゃんがら人形とは



じゃんがら人形

じゃんがら念仏踊りを踊る素焼きの人形に着色した工芸品。いわき地域に特有の土産物になる工芸品が無かったことから、鈴木百世氏が制作したもの。昭和 15（1940）年に、鈴木氏が再び教職に就くこととなったため、やむなく制作を中断した。

鈴木氏の没後 10 年が経過した昭和 27（1952）年、郷土の土産物として「じゃんがら人形」の制作を再開することとなり、平駅（現 いわき駅）前にあった「いづみや」で販売された。

昭和 36（1961）年、小名浜で行われた「第四回 放魚祭」のために、現在の上皇上皇后両陛下がいわき地域を訪れ、郷土工芸品の一つに選ばれた「じゃんがら人形」（13 人組）が、桐のケースに収められて献上された。

その後、昭和 50 年代の終わり頃まで制作された。

## 鈴木百世氏が生きた頃

M O M O Y O S U Z U K I

※太字は、いわき地域に関する事項。

和暦	西暦	事項
明治 30	1897	2 月に日本鉄道磐城線（現 JR 常磐線）水戸駅～平駅（現いわき駅）間、8 月に平駅～久ノ浜駅間が開業。
明治 32	1899	塩屋埼灯台、初点灯。
明治 34	1901	鈴木百世氏、平町（現 いわき市平）に生まれる。
明治 35	1902	小名浜に福島県水産試験場（現 福島県水産海洋研究センター）が設置される。
明治 37	1904	日露戦争が始まる。
明治 42	1909	湯本・平で電話が開通。
明治 44	1911	磐城電気株式会社によって、平・内郷・湯本で電気の送電開始。
大正 3	1914	第一次世界大戦が始まる。
大正 10	1921	平で上水道の給水開始。
大正 12	1923	小名浜漁港が完成する。 ----- 関東大震災が起こる。
大正 14	1925	治安維持法、普通選挙法公布。
昭和 6	1931	満州事変が起こる。
昭和 9	1934	平の七夕祭りが始まる。戦時中は中断したが、昭和 23（1948）年に復活。
昭和 10	1935	鈴木百世氏、帰郷して「鈴木図案社」を立ち上げる。
昭和 12	1937	平町と平窪村が合併し、平市となる。 ----- 日中戦争が始まる。

和暦	西暦	事項
昭和 13	1938	小名浜商港第一期工事完成。昭和 16 (1941) 年から第二期工事が開始されたが、戦争のため中断。
昭和 16	1941	太平洋戦争が始まる。
昭和 17	1942	鈴木百世氏、死去。
昭和 20	1945	平市街が 3 度の空襲を受ける。 太平洋戦争が終わる。

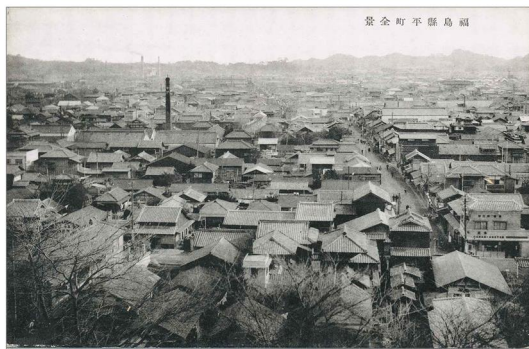
## ■ 昭和初期 平市街の様子



絵はがき「磐城」常磐線平駅（昭和初期）



絵はがき「磐城」平市本町通り（昭和 10 年代）



絵はがき「石城平町みやげ」  
松ヶ岡公園からの眺め（昭和 10 年頃）

## 鈴木百世氏の作品：商品パッケージ

M O M O Y O S U Z U K I

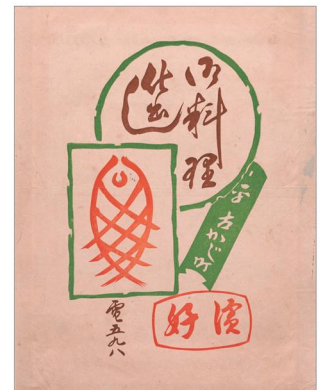
### ■ 印刷



「アマコバシサイダー」  
金子屋商店



「花見せんべい」  
松屋菓子舗



「御料理 仕出し」  
濱好



「ハチミツ」  
熊谷養蜂場



「卵せんべい」  
松屋菓子舗

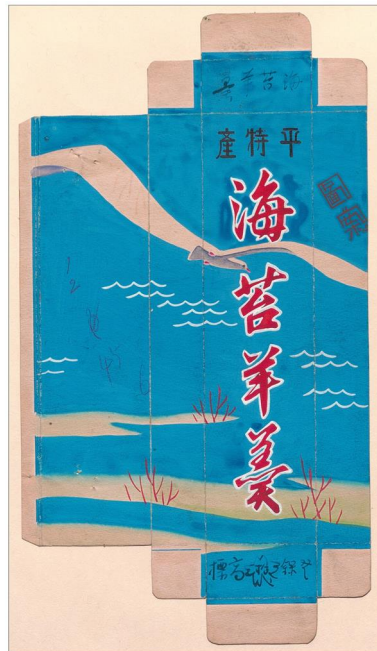


「平殿中」  
松屋

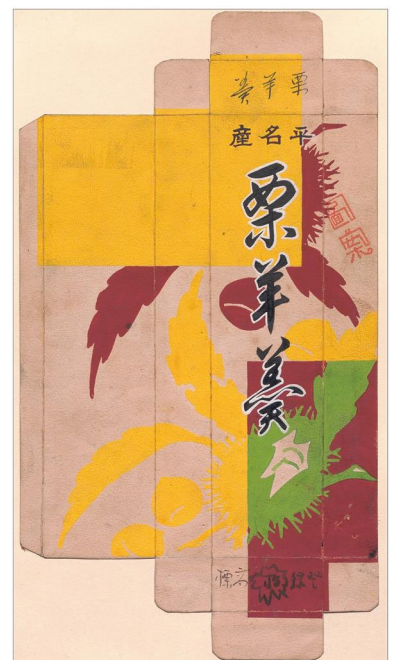
■ 原画



「くるみ羊羹」  
松屋菓子舗



「海苔羊羹」  
松屋菓子舗



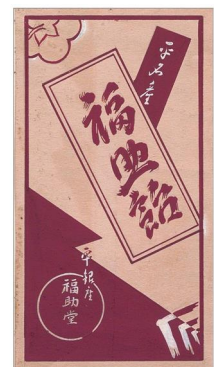
「栗羊羹」  
松屋菓子舗



「平乃ほまれ」  
多丸屋製菓所



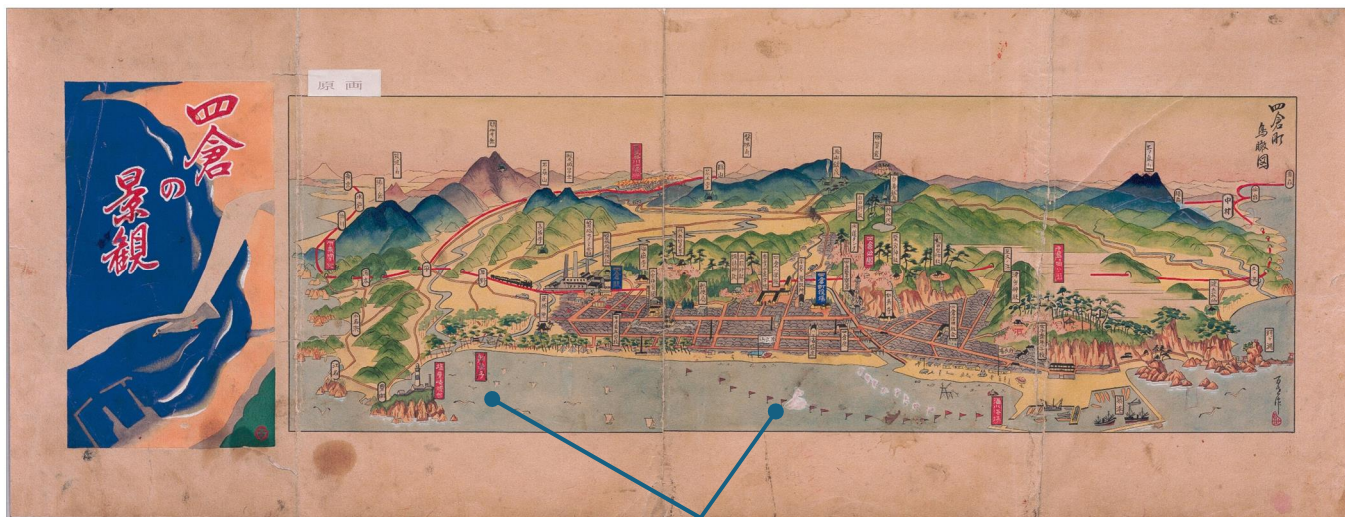
「一乃井」  
小野園次郎醸造



「福助飴」  
福助堂

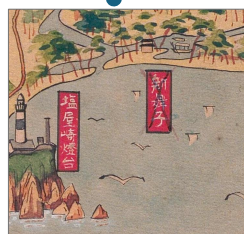


## ■ 原画の残る鳥瞰図

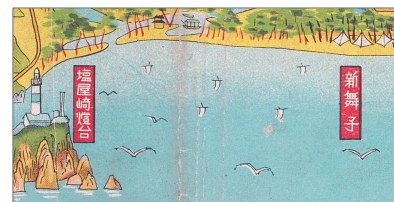


四倉町鳥瞰図（原画） 「四倉の景観」収録

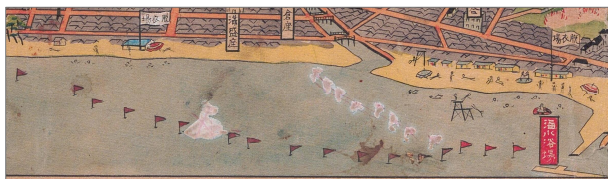
原画には、海水浴場の範囲を示す赤い旗の位置や、「新舞子」の文字の位置など、変更の跡がみられる。



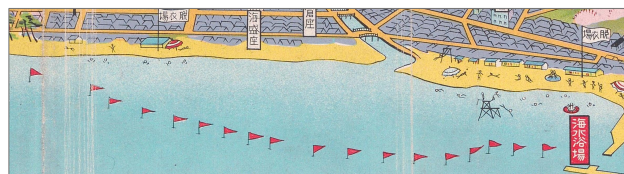
原画



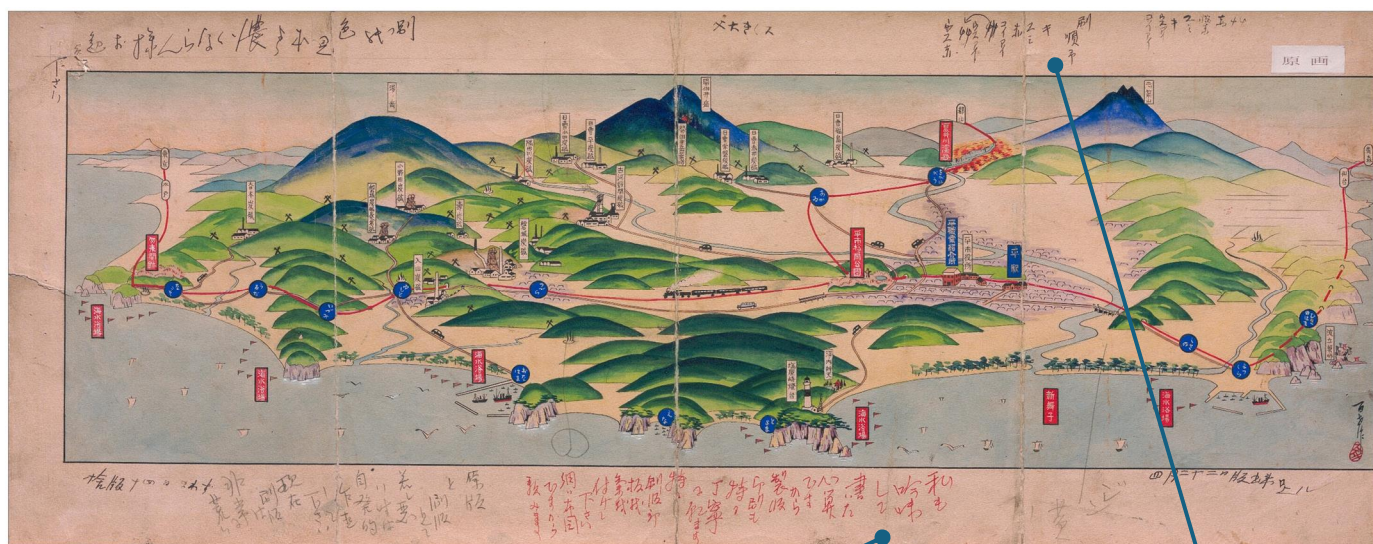
印刷



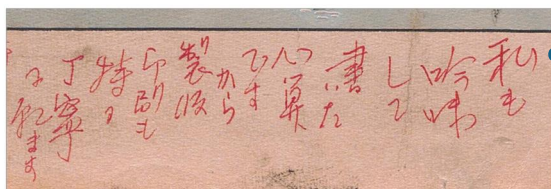
原画



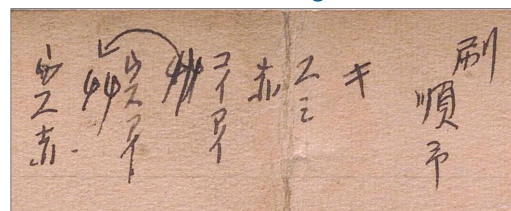
印刷

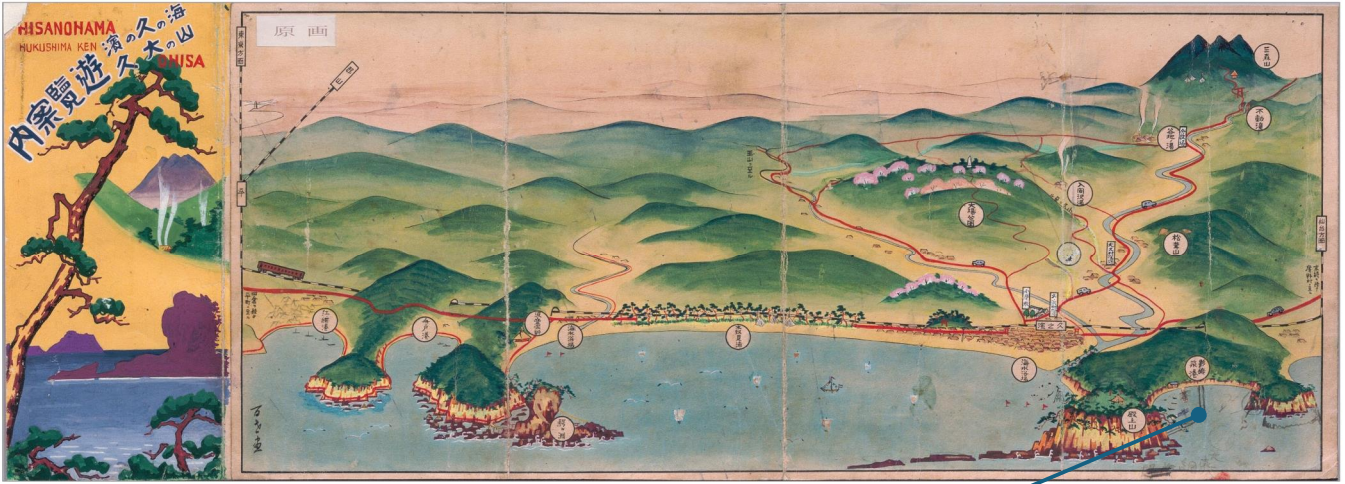


常磐炭田鳥瞰図（原画） 「住みよい働きよい常磐炭田」収録



原画には、印刷業者への指示と考えられる書き込みが多数みられる。





久之浜町・大久村鳥瞰図（原画） 「海之久の濱 山の大久遊覧案内」収録

原画には、港のふ頭の位置の変更や追記する項目の位置のメモなどがみられる。



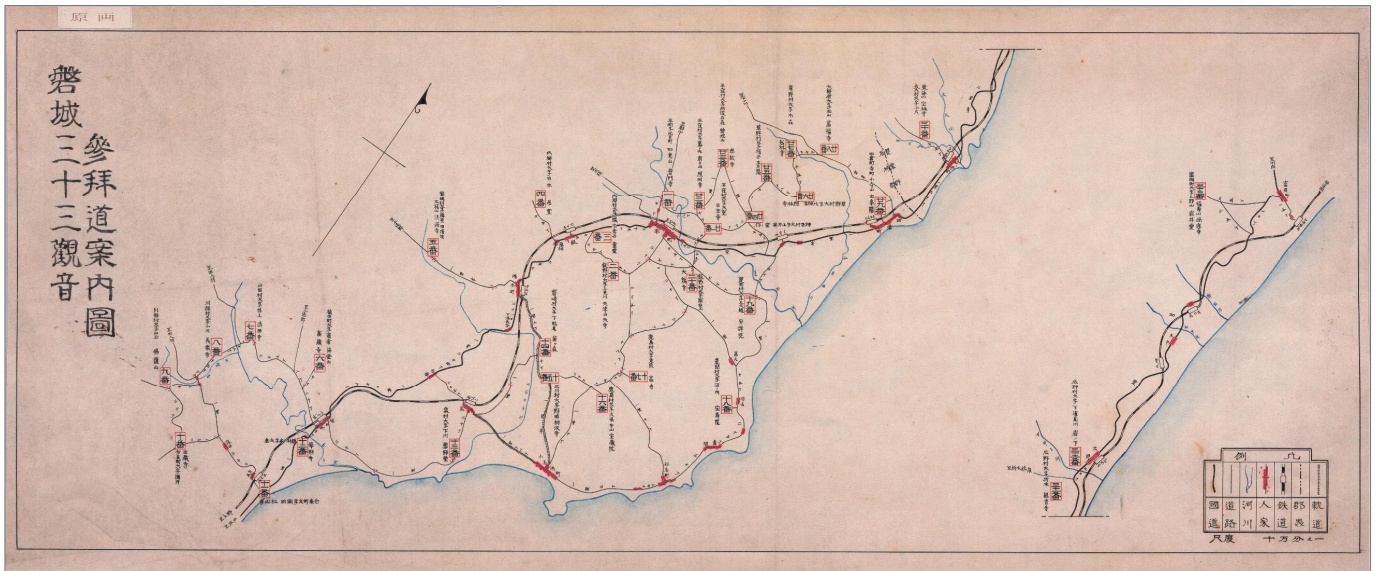
原画



印刷

## 鈴木百世氏の作品：その他

M O M O Y O S U Z U K I



磐城三十三観音参拝道案内図（原画）

### ■ 磐城三十三（所）観音とは

観音菩薩の像を安置する堂寺 33 カ所を巡礼する風習。西国三十三所観音（京都府など 2 府 5 県を巡る）や坂東三十三観音（関東地方 1 都 6 県を巡る）など、日本各地で設定されている。

磐城三十三（所）観音では、北目観音（平字北目町）岩井戸観音（双葉郡富岡町）までの 33 カ所を巡る。

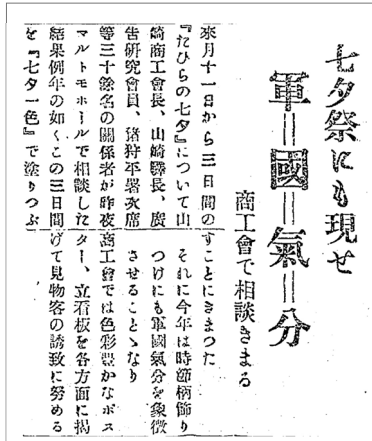


平の七夕 (印刷)

## ■当時の七夕祭りの様子



絵はがき 平七夕「平市風景」  
(昭和12年頃)



『磐城新聞』  
昭和12年7月31日 2面

## 参考資料

M O M O Y O S U Z U K I

『いわき民報 昭和62年7月6日』3面 「『じゃんがら人形』秘聞」

(『[合本]いわき民報・縮刷版(昭和62年7-8月号)』いわき民報社 1987 K/071/I-1987 所収)

『いわき市史 第3巻 近代Ⅰ』	いわき市史編さん委員会	いわき市	1993	K/210.1-1/I
『いわき市史 第4巻 近代Ⅱ』	いわき市史編さん委員会	いわき市	1994	K/210.1-1/I
『新しいいわきの歴史』	いわき地域学会出版部編集委員会	いわき地域学会出版部	1991	K/210.1-1/A
『図説いわきの歴史』	小野一雄[他]	郷土出版社	1999	K/210.1-1/I
『パノラマ地図の世界』		平凡社	2003	SS/448/P
『鳥瞰図!』	本渡章		2018	291.0/H
『日本仏教史辞典』	今泉淑夫	吉川弘文館	1999	R/182.1/=
『順礼ガイド 磐城三十三所観音霊場 改訂版』	草野日出雄	はましん	1987	K/186/K

令和7(2025)年11月6日発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館



令和7年度 後期いわき資料常設展

「デザイナー 鈴木百世—知る人ぞ知るいわき人—」

■会期 令和7(2025)年10月28日(火)

— 令和8(2026)年8月30日(日)

■会場 いわき総合図書館5階 地域資料展示コーナー